

## 林業体験プログラム『森で学ぶ』を実施いたしました。

5月20日～5月22日、宮城県大崎市鳴子温泉「エコラの森 エコラの家」にて、私立中学高等学校の先生方を対象とした林業体験プログラム『森で学ぶ』が行われました。

### 「森で学ぶ」とは？

日本の近代農業は、大規模・効率化を掲げ今日に至っています。現状、自然環境や生態系との調和を置き去りにして、持続可能とはほど遠い産業になっています。「資源は無限にあり、成長に限界はない」と錯覚した20世紀の大量生産・消費型の世界が、農業にそれを求めてきたともいえるでしょう。そして現在、多くの学校が、学校プログラムの中で農業体験、言い換えれば、近代農業の一部分の体験を行っています。はたして、それらの体験は本当の意味での学びにつながっているのでしょうか？ そこから学べること、見えること、わかることは何なのでしょう？

日能研が開発を進めているのは、本当の意味での学びを考え、森を通して学ぶプログラム。人が森林と出会い、森林に興味を持ちながら行う体験活動。今回、集った私学の先生たちは、学校プログラムへの導入をお考えの方から、林業体験に興味や関心のある方までさまざまでした。

舞台となる「エコラの森」は、リゾート開発に失敗し、乱伐され、放置されました。荒廃した森林に残る、大きな切り株。伐採されたものの価値を見い出されないまま捨てられた木々。すべての木が切り倒されて露わになった山肌。約20年前に人間が残した爪痕を前にして思わず息を飲む先生たち。

そんな「エコラの森」を少しずつ昔の豊かな美しい森に蘇らせる活動をしているNPO法人しんりんのメンバーがサポーターとなり、昼は『森づくり』をテーマに林業体験が行われます。「どの木を切れば、よりよい森になるか」を考えて“切る木”を選ぶ。マサカリやノコギリで木を切る。チェーンソーを使い、安全な方向に木を倒すために、仲間と協働する。重機が入り込めない山の斜面から、「馬搬」によって木を搬出する……。日中、アタマもカラダもココロも揺さぶられた先生たちが夜に取り組むのは『生木を使った木工体験』。昼間に見上げていた“木”が“木材”となり、そして自らの手によって“人が使うモノ”になっていきます。

最終日に行われた「学校プログラム作成・授業での活用に向けての意見交換」では、すぐに実行可能なものから壮大な計画まで、実に多くのアイデアが噴出しました。“持続可能な未来をつくるチカラ”を子ども自身が育てていけるように。私学の新しい取り組みが始まる予感がします。

